

# NEWSLETTER

THE JAPANESE SOCIETY FOR  
PARAPSYCHOLOGY

No. 25

MAY 1980

## Dr. Rhineの Memorial Service に出席して

大谷 宗司

「extra-sensory perception」という言葉を作り、この領域の実験的研究の先駆者であるDr. J. B. Rhineは水曜日の永眠された。84才……」本年3月22日付「Japan Times」紙に載ったDr. Rhine死亡記事である。私は、この千葉大学教授木内信敬氏より電話で教えられた。正確には超心理学者J. B. Rhine博士は1980年2月20日午前4時自宅において永眠された。

2年前(1978)私がDurhamを訪れたとき、その春と軽い発作を起したということであったが、お全いた夏の頃には、以前と余り変らず元気な方と見え、私もつかまえず、超心理学の将来語り、今、依頼された仕事があり忙しい方と語りつづけた。

1926年、31才の時Duke大学にDr. McDougallの下で研究を始めて以来、Dr. Rhineは今日まで、超心理学一筋に84才の生涯を終えられた。今日の超心理学の発展は、彼なくしては考えられない。正に彼は名実共に現代超心理学の父である。そして私達日本の超心理学者に対しても、彼と初めてContactをもった日知28年(1954)以来、長い間、指導・支援、励ましを与えてくれたのである。

その日、Durhamの空は青々と晴れ渡っていた。Dr. Rhineの memorial serviceが催された。Institute for ParapsychologyのdirectorであるDr. Raoから連絡を受けた私は、何かと忙しい中、遠路Durhamを訪れた。当日、研究所の所員であった人々、ニューヨークから、また西海岸からと全米から集まった超心理学者、そしてDurhamの町の知人など300余人がDr. Rhineの死を1万人一堂に会した。

追悼会はDuke University Chapelで行われた。正面に一對の花束、これはDuke大学からのものである。そして左側に菊の花束、これは我が日本超心理学会から供えたものである。天井の

高い、薄暗いチャペルの中、パイプオルガンの音が響き渡り、式が始まった。お祈り、讃美歌、Readingと読みのFamily RemembranceでのMrs. Rhineが夫Dr. Rhineの思い出を語られた。そして研究所初期の所員であったDr. Elizabeth McMahon、現directorのDr. Rao、Greenboro Collegeのpresident、Dr. Wilkinson、そしてDuke Universityのpresident、Mr. Stanfordによって挨拶が述べられた。

Mrs. Rhineは平生と変わらずお祈りした口調で、Dr. Rhineと共に超心理学の研究に入った頃のことと、時には二人と交わした話、壁に立派なものであった。Dr. RaoはDr. Rhineの最後の「We must go on…… must go on」という言葉で結び、将来の努力を誓ったが、印象が深かった。全般的に、出来るだけ故人についての楽しい思い出を述べようとしていた感じがうかがわれ、我々のところと深く結びついている傾向に比べ、或意味で感銘を深めた。

終つて、Wato StreetにあるDr. Rhineの事務所に使っていた住居で昼食会が開かれた。私は9年前、家族を連れてDurhamに滞在した時、この家をお借りして住んでいたことがあり思い出深い場所である。暖炉の上には、私の子供達が以前作ったライオン天喜と贈った折紙細工が飾られており、博士夫妻の温かい気持ちが伝わる思いであった。

食事の準備は、研究所の女性所員が昨日一日がかりでしたという。相変らずのアメリカ料理である。人々は紙の皿に盛りつけ、おちおちとたろろと話の花を咲かせ一時を過ぎた。全食への参加者は約100人。中にはDr. Dean(彼は来日したことがある。)が上着と家の中を置いたまゝ出口の鍵をさし出し大騒ぎをしたという一幕もあった。

Dr. Rhineはよく「Japanese Society」といって、我々の研究事情の良くなるようにと心配してくれられました。私は是非一度Dr. Rhineを日本にお迎えしたい、日本で超心理学の国際大会を開催してほしいと思っていました。しかしこれは遂にかなわぬ願いとなってしまいました。またDr. Rhineは日本に超心理学の研究所が出来ると切望しておられました。これは私の宿願でもあり、必ず達成すべく努力しようと思つた心で、そしてDr. Rhineと誓つてゐる所です。

超常能力者清田益章のPK能力についての研究

笠原敏雄

1974年、ユリゲラーの来日を契機として日本全国に、いわゆるミニ・ゲラーが相次ぎ出現したといわれる。その多くは、当時10才くらいの少年少女であったが、科学的研究がほとんどなされないうちに、現在ではほとんどが姿を消してしまっている。そのような状況の中で残った数少ない claimed spoon-benders のひとりに清田益章(17才)がいる。彼に関して、これまで、主に物理学の方面で研究がすすめられてきた。今回われわれは、主に psi-conductive stateとしての生理的・心理的条件に焦点を置いて研究を行なったので、その概略をここに報告する。

清田益章の claimed abilities は多方面にわたるが、今回とりあえる実験対象には、spoon-bending と thoughtography の二点であった。これまでわれわれは、被験者おとむとの両親と数回面接し、これまでの被験者の体験、心理的条件等について聞いたほか、被験者の心理検査、身体的検査も行なっている。予備的な実験は昨1979年9月に開始された。この時、PK能力発現に伴って、relaxation が必要であり、そのためには、被験者と実験者の対人関係をよくする必要があることがわかった。

本実験は、埼玉県所沢市にある防衛医学校脳波室で子回行われた。ここでは、脳波を中心とする生理的インディケータの測定を行なうながら、被験者にスプーンの変形、破断を求めた。その結果、脳波測定中にスプーンの変形、破断の起こったことが確認された。この現象は、実験者の直視している状況では起こらない。だが、オリカえ仮説、手曲げ仮説等の normal な仮説では説明しにくい状況で起こったのである。念字も数回 paranormal な感覚がみられた。一度は、実験者が数名まわりで注視し、しかもビデオカメラで録画しているという状況で、一度は少なくとも5枚の感覚と成功している。この現象は、オリカえ仮説は勿論放射線物質による感覚仮説等でも説明のつかない現象である。

破断したスプーンの破面からは、特にその破面が、paranormal な力により破断したことはわがたから、たけれども、くり返し折り曲げた時に観察される striation がほとんどみられなかったこと、さらに脳波記録に体動のあったことが示されていること、

normal な力で破断したのとは異なる可能性が高かったといえる。しかし、同様証候の域を生まない。脳波等生理的インディケータからは、特に変わった点は観察されておらず、被験者の「PK発現の際にはリラックスしてトランス状態になる必要がある。」という主張を裏づけるとも思われる生理的変化がわがたからみられたと言えるようである。

以上の結果は、今夏アイスランドで開催される Parapsychological Association Convention に発表される予定なので、詳しくは、これを参照されたい。

管理下の実験では、以上のようにこれまでのところPKの同様証候しか得られておらず、今年3月、Dr. Jan Stevenson が来日した折、博士とともに被験者宅を訪ね、被験者の手の中でスプーンがゆくりゆくりと動く様子を目撃している。この時は、念字でも、(1)カメラから電池を抜き、(2)カメラは Dr. Stevenson が持ち、(3)被験者は静かに精神集中し、(4)しかも一度は4枚別々の模様感覚と成功している。

これまで、筆者なりに気づいた psi-conductive な心理的条件は、何れも必ず強い motivation であるらしいことである。今度、研究を続けていくうえでまず考えなくてはならないのが、この「いかほど被験者の motivation を高めるか」という一般の実験心理学者が直面する問題のようと思われる。

(第143回月例研究会発表)

以上は本学会の「清田少年PK能力研究グループ」が行っている研究の中間報告の簡単な要約である

NEWSLETTER No. 25 1980年5月18日発行 価額200円  
編集 第17 日本超心理学会



学会ニュース  
第143回月例研究会

1980年5月18日(日) 16.00~21.00 東京都教育会館にて開催。出席者は4名。豊原氏が清田少年のPK実験について報告(別紙参照)。その他めぐってディスカッションが行われた。また夏の研究会の研修内容について検討がなされ、今回は昨年に引続いてコンピュータを用いたPSI研究とSurvival問題の研究の二本立てとする事になった。これらの討議のため今回予定していた大谷、金沢両氏の報告は次回に持ち越しとなった。

お知らせ

第144回月例研究会

下記要領で6月研究会を開催致します。  
日時 1980年6月15日(日) 10.00~15.00  
場所 学士会館本館 東京都千代田区神田錦町2-28 Tel 03-292-5931 (地下鉄東西線竹橋駅)

討論 "猪股博士のサイコロ=ク理論について"  
報告者 金沢元基

文献紹介 1. 中国科学院生物物理研究所 严智強 "人体的超微特发光"  
紹介者 大谷栄司

2. Alan Gauld and A.P. Cornell "Poltergeist"  
紹介者 金沢元基

◎ 第145回月例研究会は  
7月20日(日) 10.00~16.00  
場所は第144回と同じで行われます。  
内容は未定。

◎ Newsletterの発行について

11月30日迄からニュースレターは次回から隔月で発行する事と致しました。その代りに各回の内容をまとめた交差し、頁数をふやすつもりです。

◎ 海外研究論文の紹介について

今回から海外の重要な研究雑誌の中から論文のタイトルをかかげる事と致しました。皆様方の研究に少しでもお役に立てばと思っております。御希望の方は実装でこれをして差し上げるので御申出下さい。

REFERENCES

1. Blanding, W. Gardner Murphy at Harvard, 1942. J. Amer. Soc. Psych. Res. 74:102-108, 1980.
2. Child, I.L., and Levi, A. The use of judges' ratings to test hypotheses about psi processes. J. ASPR., 74: 171-182, 1980.
3. Cook, D. Vision in critical balance: The teachings of Gardner Murphy. J. ASPR., 74:94-101, 1980.
4. Greville, T.N.E. Are psi events random? J. ASPR., 74:223-226, 1980.
5. Grosso, M. Gardner Murphy on survival: An appreciation. J. ASPR., 74: 88-94, 1980.
6. Grosso, M. Psi, survival, and the religious outlook: Reflections on H.D. Lewis' Persons and Life After Death. J. ASPR., 74:227-240, 1980.
7. Irwin, I.P. The implications of subject familiarity with free-response target pools. J. ASPR., 74: 183-190, 1980.
8. Kahn, S.D. Ave atque vale: Gardner Murphy. J. ASPR., 74:37-52, 1980.
9. Kennedy, J.E. Learning to use ESP: Do the calls match the targets or do the targets match the calls? J. ASPR., 74: 191-209, 1980
10. Krippner, S. Greatness, Goodness, and Gardner Murphy. J. ASPR., 74:52-61, 1980.
11. Lenz, J.E., Kelly, E.F., and Artley, J.L. A computer-based laboratory facility for the psychophysiological study of psi. J. ASPR, 74:149-170, 1980.
12. Murphy, G. Notes for a parapsychological autobiography. J. ASPR., 74:26-37, 1980.
13. Pratt, J.G. Gardner Murphy: Teacher, mentor, co-worker, friend. J. ASPR., 74:65-77, 1980.
14. Rhine, J.B. My partner, Gardner Murphy. J. ASPR., 74:62-65, 1980.
15. Schmeidler, G.R. Gardner Murphy: A short biography. J. ASPR., 74:1-14, 1980.
16. Stevenson, I. Gardner Murphy and the question of survival of human personality after death. J. ASPR., 74:78-88, 1980.
17. Tart, C.T., et al. Additional tributes to Gardner Murphy from colleagues and friends. J. ASPR., 74:109-138, 1980.
18. Tart, C.T. Are we interested in making ESP function strongly and reliably? A reply to J.E. Kennedy. J. ASPR., 74: 210-222, 1980.
19. Ullman, M. Letter to a late friend-- Gardner Murphy. J. ASPR., 74:14-26, 1980.